

道

NO. 25

2012. 5. 22

運動会が終了！

みんなにとって中学校生活最後、そして向島中学校としても最後となった運動会が5月20日（日）に行われました。この日を迎えるまでに、約2週間の練習取り組み期間が設定され、全校練習ではどの学年よりも早く整列を完了し、しっかりとした準備を整えて臨んでいた3年生の姿勢は立派の一言でした。また、学年練習では予定していた練習内容を消化するのが早く、最後の学年練習となった18日（金）は、クラス自由練習を行う程の進み具合でした。色々な面で最上級生らしい姿を見せてくれた3年生、思わず2年前を振り返り、成長した姿を再確認していたのは私だけではないかもしれません。あれから2年、確実にみんなは成長していました。

クラス応援席で出欠確認後、体育委員が中心となってクラスの整列を呼びかけると、3年生の姿勢を学ぶかのように1・2年生も時間よりも早く準備が整い、入場を待つばかりとなりました。その待っている時間には、体育委員長の渡邊さんや生徒会長の根本君がこの日の運動会に向けた言葉を投げかけると、全校が拍手で応えてくれて士気が一気に上がったようでした。そして、いよいよ入場行進。生徒会から3年1組へ・・・そして2組→3組→4組へと続くそれは、緊張感を保ちこれから始まる最後の運動会への意気込みが感じられるようでした。正直、素晴らしい。そして、格好の良い入場行進でした。開会式では3年生が中心となって役割を果たしていきました。開会の言葉、競技上の注意、選手宣誓。どれをとっても緊張感が満ちあふれ、その緊張感を笑ったり、落ち着きがないような仕草をしたりするようごまかしはなく、しっかりとその緊張感に立ち向かっている姿は好感が持てるものでした。見ている人たちの心に伝わる感動的なものになったと思います。非常に素晴らしい開会式が終了し、清々しい気持ちになりま

した。また、予行の時は歌っているのかどうか分からないぐらいの校歌斉唱だったものの、この日は全校が力を合わせて歌っているような素晴らしいものになったと思います。そして、いよいよ競技開始。足早に動き回る3年生の姿は心地よいし、みんなと行う最後の運動会だと思うと残念な気持ちにもなりましたが、一つひとつプログラムは進んでいきました。

最初の競技は、800mと1500mでした。代表となった選手たちが、最後の最後までクラスのために歯を食いしばって走っていた姿が印象的でした。100m、これも一人ひとりが全力で駆け抜けてくれたと思います。そして、クラス全員で取り組む最初の競技全員リレー。直前までクラスごとに色々な作戦を考えたそれは、見応えがあったしバトンパスの上手さが光ったものでした。この後『武田節』『風林火山』『PTA綱引き』を終え、午前中最後のプログラムとなる男女混合リレー。クラスのためにつなぐバトンは、目に見えない重さとプレッシャーがかかっているようでした。こうして、午前中の種目が終了して給食へと移り、束の間の時間緊張感から解放されたようでした。しかし、そういう時間もあつという間に過ぎて午後の種目の開始時間になりました。

午後の最初は部活動対抗リレーと応援でした。各部活動の意地と意地がぶつかり合うようなリレーは、見ている人たちを釘づけにしました。応援は各学年ごと、色々な趣向で一瞬緊張感を忘れ、和やかなムードになることができました。そして、3年生の残す種目は『追っかけ綱引き』『大縄とび』『学級対抗リレー』となりました。綱引きでは予選の時の順位ではなく、番狂わせなどが起こり悔しさを噛みしめるクラス、喜び合うクラスと両極端な姿が交錯しました。大縄とび、今まで以上に力を出せたクラス、力を出し切れなかったクラスとありましたが、4クラスとも一昨年、昨年以上にレベルを上げていました。そして、運動会のクライマックス『学級対抗リレー』、男女混合リレーと同様にバトンの目に見えない重さとプレッシャーを感じたリレーは、圧巻の一言でした。こうして、あつという間に過ぎ去っていった運動会は幕を閉じました。

熱戦、激戦、一生懸命に行った運動会。みんなの素晴らしい運動会を代表として、トロフィーをもらうことになったのは4組でした。しかし、素直に勝ち負けだけでなく、最後の最後まで全力を尽くした3年生の運動会は感動的で、下級生にも大きな影響を与えるものになりました。生徒会スローガン、

最後の戦いへの幕開け ～64年の集大成～

の責任を果たせたと思います。見ている人たちの心に刻み込まれる感動的な一日になりました。もう、みんなと運動会をすることはありませんが、感動を有難う！！